

## NPO 法人「Nagomi Visit」副理事 真田ありささん

「ホームビジット」とは、旅行者などを一般家庭に招き、その家が日頃提供する食事を一緒に食べながら2～3時間という短時間の交流をする体験だそう。宿泊を伴うホームステイよりもホスト（旅行者を迎え入れる側）の負担は軽くなるとのこと。つまり異なるバックグラウンドを持つ者同士の触れ合いを、ホームステイよりも低いハードルで体験できるのです。

2011年9月のサービス開始以来、世界5大陸から3000人以上が参加、日本在住ホスト数も600組を超えています。大都市圏を中心に日本中あまねく正真正銘のリアルな「世界への窓」を普及させているNagomi Visit。副理事である真田ありささんがホームビジットの伝道師になった背景には、長きにわたる自身のアイデンティティとの壮絶な闘いの歴史がありました。



### Nagomi Visit (ナゴミ・ビジット)

東京を拠点として、世界60カ国近くの人たちが利用する「ホームビジット」のサービスを運営するNPO法人

Nagomi Visit Web <http://nagomivisit.jp/>

## 日本が大嫌いだった子ども時代

私がNagomi Visitに参加したのは2012年1月ですが、これまでの私の半生を振り返ると、Nagomi Visitとの出会いは偶然ではなく必然だったかもしれません。

私は日系2世として、アメリカのバージニア州で生まれました。1970年代に渡米した両親は、私に「日本語を勉強しなさい」「日本語補習校に行きなさい」と言いました。でも私は日本はあくまで「両親にとっての祖国」だと思っていたから、反発しかありませんでした。

そのうち、私はアイデンティティ・クライシスに陥りました。

## 世界中の人たちに“Real Japan”を伝えたい

「日本人でもない、アメリカ人でもない。じゃあ、私は自分自身を一体何人（なにじん）だと言えいいの？」みたいに・・・もちろん国籍上は私はアメリカ人ですけど、ハッキリと「私は〇〇人」と決めたくなくなりました。

ちょうどその頃、私の実家ではよく、日本からアメリカの高校に留学する子たちをホームステイに受け入れていました。一番最後に我が家にホームステイした女の子が同世代で、彼女から日本の音楽について聞きました。

そのようなこともあって、私は反発を覚えていた日本に、興味を持つようになり、ルーツに目覚めました。インターネットが普及し始めたこともあり、自分からいろいろと日本の情報を探すようになりました。

やがて情報を探すだけでは飽き足らなくなり、1996年、私は日本の最新情報を発信するサイト「Real Japan」を立ち上げました。私のアイデンティティの半分以上を占める日本を、他の人にも知ってほしいと思い始めたのが理由です。

このサイト運営中に日本語が勉強できる大学に入り、その後もっと日本を見るために、早稲田大学に1年間留学しました。アイデンティティ・クライシスに陥っていた自分にとって、“自分探し”の意味があったのです。

結局小学校の頃の日本での滞在はもちろん、早稲田への留学

期間でも、私にとっては満足できるものにはなりません。だからアメリカの大学を卒業後、再び日本に来ました。多言語でのウェブ制作や訪日観光客向けのマーケティングに携わる日系ベンチャー企業に入社しました。それ以来、意外に居心地が良くて（笑）日本で生活しています。

## 長い闘いに終止符

それまでアメリカと日本しか知らなかった私は、30歳になる直前、「世界のことを知りたい!」という強い思いが生まれて大学院に行くような感覚で世界一周の旅に出ました。

カウチサーフィンやFacebook、Twitterを駆使していろんな国を廻って滞在するうちに、1年間で訪問国数は60カ国に達しました。



世界一周する間に、私は日系人関連の博物館を全て回りました。ブラジル、ペルー、米フロリダ、ロサンゼルス・・・ありとあらゆる世界中の、日本と繋がりのある場所に行きました。さらに、各国でその国のマイノリティの人たちに会いました。彼らの悩みに触れ、共感し・・・そして私自身のアイデンティティ・クライシスに“ケリをつけた”んです。自分はアメリカ人か、日本人か？という、自分の頭の中で小さいころから繰り返してきた議論に、ついに終止符を打ちました。答えは・・・「どっちでもいいじゃん！」でした。「私は人間でいいんだ！」と思えるようになったんです。

## ホームビジットの アイデアにふるえる

Nagomi Visit の構想を現代表の楠から聞いたのは、まだまだ私が世界一周旅行をしていた2011年9月。彼女は私と同じ会社のすぐそばの席で仕事していて、彼女も会社を辞めてデンマークに行きました。そして知人の家に宿泊し、その家族と一緒に食卓を囲みました。その経験から Nagomi Visit のアイデアを得たのです。

私自身は、帰国後はフリーランスで生計を立てようと思っていました。一方で楠は、日本人ホスト側4家族と共に Nagomi Visit を立ち上げたのです。そんな折に楠から、翻訳の手伝いを頼まれました。そのうちにすごく興味が湧き、私は楠に伝えました。「もしあなたの活動で今後パートナーが必要だったら、サポートでも何でもやるよ」と。

私たちはお互い得意分野が違っていたし、楠はホストである日本人の気持ちが分かる一方、私は訪問する外国人の気持ちが分かるなど、良い形でバランスが取れていました。それに私の家族がアメリカで日本からの留学生を受け入れていたり、私自身もカウチサーフィンで日本での旅行客受け入れホストをしていたことがありますしね。

こうして私は日本帰国後、2012年1月正式に Nagomi Visit に参加しました。



ホストになるには / 応援していただける方へ / nagomi ストーリー / 団体概要 / ブログ / english

### 世界中の旅人と食卓を囲むホームビジット

NAGOMI VISITは、世界中から日本にやってくる旅行者を我が家に招き、普段のおうちごはんと一緒に食べながら2-3時間交流をする、ホームビジット。

はりきって普段と違うおもてなし料理を作って迎えるわけではなく、毎日おうちで食べている、普通の家庭料理を用意します。

たった数時間。しかも、いつものごはんと一緒に食べるだけ。たったこれだけのことで、自宅にいながらにして世界中の様々な人と過ごす時間は新しいライフスタイルになるはずです。

差別はらず、シンプルに。いつもの生活の中に、グローバルな体験、取り入れてみませんか？



## 寿司や天ぷらが無い和食体験

Nagomi Visit のご利用者の出身国は約60カ国に及びます。また、海外から日本に旅行に来た人たちだけでなく、日本に住んでいる外国人もいます。彼らは、例えば日本人と接する機会が少ないエリアに住んでいたり、留学生で普段は寮生活をしているため、“普通の日本の家庭の食事”を体験したくて Nagomi Visit に参加したりします。



日本の普段の食卓では、にぎり寿司や天ぷらはそんなに出てきませんし、お寿司でもちらし寿司や手巻き寿司が出てくるのが日常の日本の食生活であり、それを体験していただけます。中にはすでに日本食に慣れ親しんでいる人が来て、逆にホスト側がその知識に驚くこともあります。

私たちが Nagomi Visit を通じて皆様にご提供しているのは、**国を超えた交流の《きっかけ》**です。そこで仲良くなれば、独自に皆さんが連絡を取り合っていたいただくのは大歓迎です。もしかしたら「今後も私たちのサービスを使ってもらいたいから、個別に連絡を取り合うのは禁止する」というところもあるかもしれませんが、でも私たちは絶対にそのようなことは言いません。

## 過度な利益追求は目標を曖昧にする

Nagomi Visit は非営利で運営しています。その理由は、私たちやホスト側の利益追求よりも、ホストと訪問者が対等な立場で異文化交流を楽しみ、その後も交流が続いてくれることに重点を置いているからです。

例えば利用料金ですが、ホスト側が独自に設定できないようになっています。もしホストが利用料金を設定できるようになると、儲けが出る料金設定をする人も出てくるでしょう。そのような状況で、果たしてお互いに「友達になりたい」という気持ちが生まれるでしょうか？もしかしたらホスト側が訪問者を受け入れる目的が“お金”になってしまうかもしれません。そのようなになったら、本末転倒です。

私たちの活動のゴールが異文化交流の促進であるからこそ、私たちは非営利団体であること、利用料金は私たちで決めさせていただいていることを、ウェブサイトに明記しています。

# 日本の Real 世界の Real 人間の Real

私のこれまでの人生は「Real」を伝える」というキーワードに尽きると思います。

1996年、私が15歳の頃に“Real Japan”を作った時は、本当の日本を知りませんでした。でもその後日本に留学したり、日本で生活する中で、私にとっての Japan はより Real に近づいていきました。

そして今、私は Nagomi Visit を通じて再び“Real Japan”を海外の人たちに伝えていきます。さらに Nagomi Visit では、世界中から来る利用者を通じて、ホストの方々に“Real World”を感じていただいています。

## 異文化を認め合い 尊敬し合う世界へ

私が世界中を廻って、世界中の人たちに出会って導き出した答え - それはすごくつまらないことかもしれませんが「**みんな同じ人間なんだ**」ということ。そして「人は同じことで悩んでいる」「喜びを感じる原点も一緒なんだ」ということです。ただし、注意してほしいことがあります。

「人は皆同じ」と感じる前に、最低限はその国の宗教事情や社会情勢、人種問題や格差問題などを知っておく必要はあります。だからこそ Nagomi Visit に参加し、世界中の様々なバックグラウンドを持つ人と出会い、宗教などを含めた世界の現状や、異なるバックグラウンドの人たちとの接し方を体感していただければと思います。

また、ホストさんの中には外国人とあまり接したことない方もいらっしゃると思います。そのような方が1歩でも2歩でも良いから前に進めるように、背中を押す必要があると思います。

こんな素敵なことがありました。あるご家族が、お母様の反対を押し切ってアフリカからいらした方を迎え入れました。お母様は外国人をご自宅に上げることを反対していたのですが、しばらくしてお母様は、その方と豪快にビールを乾杯していたんです！人って、それくらい変わるんですよ。

Nagomi Visit が、一人でも多くの方が“多様性を受け入れ、言葉や国を超えて異文化を認め合い尊敬し合う”ためのきっかけになればと思います。そして、そのようにして生まれた**つながり**を世界中に増やしていきたいと思っています。



## 真田さんにとっての日本とは？

**日本は意外に多様だと思います。  
だから刺激的で面白いんです。**

私が日本に来る前に抱いていた日本のイメージは「人はみんな同じことしか考えない」「あまり主張しない」「周りと同じような生き方しか望まない」みたいに、どちらかと言えばネガティブなものでした。特に私の周りには、そんな日本社会が嫌で海外へ移り住んだ日本人が多くいました。

しかし実際に日本に住んでみたら、色々な考えを持ったとてもユニークな人、頑張っって自分らしい生き方を歩もうとしている人にたくさん出会いました。それにもかかわらず、世界からは未だに「出る釘は打たれる」だけの社会としか見られないことが多いのは、とても残念です。



言葉や文化が違ってても、人と話をして初めてわかることが多くあります。人との交流を通じて、世界中の方に日本の面白さを知っていただけたらと心から思います。そして Nagomi Visit が、その助けになればと思いますね。

### 真田さん関連リンク

Nagomi Visit

<http://nagomivisit.jp/>

Nagomi Visit Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nagomivisit>

Nagomi Visit@Twitter

<https://twitter.com/NagomiVisit>